

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月 日

協議会名: 田原本町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
田原本町	日常生活で移動に困難を抱えている住民を対象に、町内の指定タクシー事業者で、町内での利用または発着のどちらかが町内となる便で利用可能なタクシー初乗り料金(680円または690円)を助成するタクシー利用券を申請に基づき発行する。		A 計画通り事業は適切に維持し、実施することができた。	B ・タワラモトンタクシーの年間利用者数: 目標 3,100人 →実績2,902人 ・タワラモトンタクシーにおける公的負担額: 目標 24,000千円→実績22,195千円 ・タワラモトンタクシーの満足度: 目標 現況以上(直近の実績45.9%)→実績61.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年4月より利用可能な日を拡大し、日曜日・祝日も利用できるようになっているが、十分周知できておらず、未だ改善要望がある。制度の運用改善によって便利になっていることを知ってもらい、外出支援につなげるため、分かりやすい周知方法を検討する。</li> <li>・利用時間に対する不満が多いことから、利用ニーズが見込める時間帯を見極め、利用できる時間の拡大を検討する。</li> <li>・必要性の低い人には必要以上の枚数が交付される一方、必要性の高い人には枚数が不足している。また、制度改善や周知の効果、高齢化の進展等に伴って利用者や利用回数が増えれば、財政負担も増えることから、制度を維持していくために、バランスのとれた交付枚数や利用者負担を検討する。新たに運行を開始したデマンド交通との棲み分けも踏まえながら検討を行う。</li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月 日

協議会名:	田原本町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>田原本町は、奈良盆地の中央部に位置し、町の東部を大和川(初瀬川)、中央部を寺川、西部を飛鳥川、曾我川が北流する平坦地である。町の中央部分に位置する近鉄田原本駅及び近鉄西田原本駅を中心に市街地が形成され、周囲に田園が広がる。町域は南北6.1km、東西5.8km、総面積21.09km<sup>2</sup>で、北は磯城郡三宅町、南は橿原市、東は天理市・桜井市、西は北葛城郡広陵町に囲まれ、生活圏を他市町と共有している。大阪・京都方面への通勤者のベッドタウンとしての性格が強く、人口は31,177人(令和2年国勢調査)である。</p> <p>以前は路線バスも運行されていたが、平成29年を最後にすべてが廃止されており、町内には公共交通空白地域が広く存在する。そのような状況下で、通常タクシー初乗り運賃を助成するタワラモトンタクシー利用料金助成制度を導入しており、高齢者を中心に、通院、買い物等の生活に必要な交通を利用する支援として機能している。</p> <p>制度の持続性の担保と財源の有効な活用という視点を踏まえて、タクシー利用券を必要とする人たちに適切なサービスを提供するための運用改善策を実施するとともに、地域公共交通確保維持事業を活用すること等により、制度を健全な形で維持することで、住民の生活交通手段を存続させる必要がある。</p>